

教科目名 技術者倫理 (Engineering Ethics)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 田中純二、小西忠司

授業の概要			
近年、科学技術の基本に関わるような事象事例が数多く報告されている。なかでも関係した科学技術者の倫理性が問われる事例が多々見受けられる。本講義では、こうした技術と倫理に関わるさまざまな問題について、教科書をとおり、又事例を考慮して、技術者としてのあり方を学習する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (A2), JABEE 目標 (b)	
(1) 科学技術と人間社会との関わりについて理解を深める。(試験、課題及び討論により評価) (2) 技術者としての社会に対するモラルを身につける。(課題及び討論により評価) (3) 技術者としての社会に対する責任を自覚する。(課題及び討論により評価) (4) あるべき技術者像を身につける。(試験、課題、及び討論により評価)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	I. 事例分析 組織とエンジニア、起業の社会的責任	チャレンジャー号事件他	【理解の度合い】
2	安全性と設計	日本航空ジャンボ機墜落事故他	
3	事故調査	日航機ニアミス、信楽高原鉄道事故	
4	製造物責任、知的財産	六本木ヒルズ回転ドア、青色発光ダイオード裁判他	
5	施工・工程・維持管理	雪印乳業集団食中毒事件、JOC 臨界事故他	
6	企業秘密を守る、内部告発	転職のモラル、内部告発の事例他	
7	倫理規定、専門的知識の研鑽、専門家の責任	耐震偽装問題、シティコープタワー他	
8	セクシャル・ハラスメント、わいろ	職場でのセクシャル・ハラスメント他	
9	II. 工学倫理の基礎知識 安全について知るべきこと	リスクアセスメントとリスクの低減	
10	知的財産権について知るべきこと	特許と著作権の比較	
11	製造物責任法について知るべきこと	製造物責任法の目的と背景	
12	ビジネス倫理・倫理綱領について	企業の倫理、組織における個人	
13	応用倫理・倫理概念について	応用倫理とは、責任への障害	
14	工学の倫理概念について	技術者の責任の 3 つの概念、倫理問題の解決法	
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	本講義では、事前準備もしくは日常の関心(新聞、雑誌等によく目を通しておく、提示資料の読み込、級友との議論)が必要である。資料等の内容を良く理解し、思考し、議論することが大切です。世の中さらに複雑になり、スピードが早くなっている。自分の考えを持つことが必要ですし、又柔軟に対応することも要求される。		【総合達成度】
教科書	斎藤了文他編著 はじめての工学倫理第 3 版 昭和堂		
参考図書	中村収三他編著 技術者による実践的工学倫理第 3 版 化学同人		
自学上の注意	授業中の課題、教科書・配布資料の要点をまとめてノートに整理する		
関連科目	倫理(本科), 工学倫理(M科), 環境保全工学(専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について定期試験とレポート、グループディスカッション(GD)で総合評価する。 総合評価=80%(定期試験)+20%(課題、討議評価)とし、総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は総合評価が 60 点に満たない学生に実施する。		【総合評価】 点